世界連邦 Newsletter

２０１３年９月28日
第619号

発　行　所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan
〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F
電話（03）6803-2114　ＦＡＸ（03）6803-2117
E-mail: info@wfmjapan.org　Twitter ： wfmjapan
URL: http://www.wfmjapan.org/
郵便振替　00190-6-29964

1 部 100 円（年 6 回　奇数月 1 回 28 日発行）

京丹後で中東国際交流プロジェクト開催

同プロジェクトは「世界恒久平和を築くため、世界中の人々が地球市民として、国境を越えてお互いに連帯しよう」という世界連邦の趣旨に基づき、2003年に、京都府綾部市（世界連邦宣言第一号都市）の四方八洲男前市長（世界連邦宣言全国自治体協議会前会長）の呼びかけで始まった。交流を通じ、イスラエル、パレスチナ及び日本の青少年が平和の尊さや相互理解の重要性を学ぶ国際イベントとして注目されている。

イスラエルとパレスチナの紛争で親族を亡くした子どもを日本に招き、開催市の市民と共に交流する「中東国際交流プロジェクト」が、3 年振りに 8 月 8 日から 5 日間、京丹後市を中心に行われた。主催は「中東国際交流プロジェクト in 京丹後実行委員会」（会長：中山泰 京丹後市長）。同プロジェクトはホストファミリー、市内三つの高校の生徒たち、実行委員会、NPO 法人大本イスラエル・パレスチナ平和研究所はじめ多くの関係者の支援と協力により開催された。なお、この事業は世界連邦宣言自治体全国協議会より交付金を受けている。

8 回目の今回はイスラエル・パレスチナ、それぞれ 5 人の高校生らを含む双方の参加者（各引率者含め 12 名）が来日した。8 日から双方一人ずつでペアを組み、ホームステイ。ホストファミリーは市内の六つの家族が受け入れた。

歓迎式典で実行委員会会長・中山泰市長は「交流を通じて、皆それぞれが国や民族の境界を超えて、一人ひとりの命に互いに向き合い、尊び合う平和への想いが広がっていくことを確信している」と挨拶。

レセプションでは府立峰山高校の平井葵さんが英語でスピーチ。同校ブラスバンド部の演奏や、丹後小町踊り子隊らが歓迎した。

紛争遺児の高校生たちは、9 日から 10 日にかけて、地元の高校生と浴衣の着付けや茶道を体験し、また久美浜湾で久美浜高生とドラゴンカヌー体験などを行なった。

初めは、口数が少なかった子どもたちも、日本の文化体験やホストファミリーと行動を共にすることで少しずつ打ち解け、互いを気遣ったり、談笑したりする光景が見られた。10 日の夕食会では終始笑い声と喝采に包まれていた。

（首相官邸にて）

12 日には安倍晋三首相を官邸に訪ね、交流の報告。子どもたちは安倍首相に、平和実現へ向けた子どもたちのメッセージ（別記）を、イスラエルとパレスチナの両大統領と和平交渉を仲介するオバマ米国大統領へ渡してもらうよう依頼した。

同プロジェクトはイスラエル・パレスチナ双方に今後の平和構築に向けて貴重な機会を提供している。まだ開催していない宣言自治体にも是非協力していただきたい。

＊イスラエル、パレスチナの両大統領へのメッセージ

イスラエル国大統領　シモン・ペレス様
パレスチナ自治政府大統領　マフムード・アッバース様

（前略）生まれ育ち経験した環境は異なっていても、紛争による悲しみや喜びに決して宗教や民族の違いはなく、また価値観の違いはあっても同じ一人の人間として共に悲しみや喜びを共有し、共にそれぞれを受け止め合えば、違いを乗り越え、大切な「平和」を目指すことができると実感しています。

双方のリーダーの方々には、困難に直面しても絶対にあきらめず、粘り強く話し合いを続けてくれることを切に望みます。

私たち自身の未来の平和を創ること、その私たち自身が共に時間を共有し、理解をし合うことを続けるなら、違いを乗り越え共に同じ平和を目指すことができると確信し始めています。絶対にあきらめないで。

国や民族の境界を超えて、平和の根っこにあるイスラエルとパレスチナの一人ひとりの命と人生に向き合い、互いに尊び合い、理解を深め合うことこそ、必ずや未来の平和と和解に導く道であると感じています。そのことが、二つの国を結び包む平和の実現への未来を紡ぐと思います。

相手と自分、国や民族は違っても、相手も自分もかけがえのない同じ一人の人間、憎しみの原因が相手にあると思っても、相手から見れば自分を鏡に映したかのごとくであると理解できます。

今こそ、国や民族を超えてかけがえのない一人ひとりの人間として向き合い、尊び合い、共に悲しみも、そして喜びも互いに共有しましょう。それが悲しみの連鎖を平和と和解に導く道であると確信します。

私たちの未来、イスラエルとパレスチナすべての人々の未来のために、決して、決して、絶対にあきらめないで！　切に、切に望みます。

2013 年　8 月 12 日
中東国際交流プロジェクト in 京丹後
イスラエル・パレスチナ生徒一同

（阿久根　武志）

本部と支部等の動き

6 月 27 日　青梅支部総会　青梅市福祉センター
7 月 8 日　加古川支部役員会　加古川町井上ビル
7 月 24 日～26 日　WFM 理事会　ニューヨーク
7 月 26 日　世界連邦宣言自治体全国協議会総会　焼津市
7 月 26 日　松山市戦争犠牲者祈念追悼式
8 月 5 日　推進協　第六回世界連邦実現に関する政策提言
8 月 12 日　中東国際交流プロジェクト首相官邸表敬訪問
10 月 5 日　WFM 理事会報告　岡山国際交流センター
11 月 2 日　石川県連合会 2013「秋の講演会」

青梅市が「親子ヒロシマ派遣」

青梅市は、広島の原爆関連施設の見学や平和祈念式典への参加を通じて、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、平和の尊さを感じてもらうため、「親子ヒロシマ派遣」事業を初めて行なった。作文審査と面接を経た親子 3 組が 8 月 5 日から 3 日間、被爆地を訪れ、市民から託された折り鶴 9 万羽を届けるなどして交流・体験をした。この事業は世界連邦推進事業として認定され、世界連邦宣言自治体全国協議会より交付金を受けた。

第六回「世界連邦実現に関する政策提言」を提出
― 国際司法裁判所選択条項受諾キャンペーンをテーマに ―

（右から日下部理事長・菅官房長官・海部会長・横路国会委員会会長・猪口常任理事）

8月5日、総理大臣官邸官房長官室にて第6回「世界連邦実現に関する政策提言」が行われた。世界連邦運動協会より海部俊樹会長（元内閣総理大臣）と日下部禧代子理事長、世界連邦日本国会委員会より横路孝弘会長と、今回日程調整など提出のための実務面で尽力した猪口邦子常任理事が出席。

まず、世界連邦推進日本協議会を代表して海部俊樹会長より菅義偉官房長官に提言書を手交。海部会長より2005年の国会決議などについて触れながら挨拶があった後、横路孝弘会長より、世界連邦の歴史や関係4団体のことに触れつつ、今回の提言内容について説明があった。

今回の政策提言は国際司法裁判所選択条項受諾キャンペーンがテーマである。国際司法裁判所では紛争当事国双方の合意がないと裁判が開始されないが、「選択条項受諾宣言」を行なった国同士は改めての合意がなくとも裁判が開始される。この宣言を行なった国は日本を含め69カ国しかない。紛争が力でなく法で解決される世界を構築するため、宣言国を増やすよう政府がキャンペーンを行うことを求める、というのが概要である。

菅官房長官は「よく読んで検討してみます」と答えた。日下部理事長より、前回（第5回）の政策提言のテーマである国際連帯税についてもぜひ検討してほしい旨の補足があった。

（塩浜　修）

世界連邦宣言自治体全国協議会　総会開催
― 第五福竜丸被災60年を前に平和を誓う ―

7月26日、静岡県焼津市のホテルアンビア松風閣において、世界連邦宣言自治体全国協議会の総会が行なわれた。焼津市は1954年に水爆実験により被曝した第五福竜丸の母港を持ち、被災60周年を来年に控えている。

開会にあたり、世界連邦宣言自治体全国協議会の山崎善也会長（綾部市長）と、開催地の中野弘道・焼津市長が挨拶。また、世界連邦推進日本協議会の海部俊樹会長と世界連邦日本国会委員会の横道孝弘会長からの祝辞が代読された。続いて議事に入り前年度の事業報告と決算、本年度事業計画と予算案、規約改正、世界連邦推進事業交付金要綱の改正が全て原案の通り承認された。

規約改正は、常任理事と理事という役職が別個に存在していたのを理事のみに一本化、交付金要綱改正は対象を「加盟自治体」に限っていたものを「加盟自治体等」として「世界連邦」を標榜している事業であれば加盟自治体外にも対象を拡大するものである。

副会長に中野弘道・焼津市長を加えるなど、役員体制の一部が改編された。

総会終了後、静岡福祉大学の加藤一夫名誉教授を講師として「ビキニ事件60年が提起するもの」という演題で研修会が行なわれた。

加藤氏はビキニ事件の概要、水産業等への風評被害などについて触れた後、歴史的意味について述べ

た。従来、爆風のことは知られていても放射能のことはあまり知られておらず、この事件はその研究の出発点となり、また、それまで無視されていた被曝者救済運動を促した。最後に加藤氏は1985年以来毎年行なわれている6.30市民集会や「やいづ平和学」市民講座、ゴジラファン集会（ゴジラは水爆実験で蘇ったという設定で、第五福竜丸事件をきっかけに製作された)、ビキニ事件60年プロジェクトなど地域市民がつくる平和運動を紹介した。研修会後、懇親会が行なわれた。来年の総会は広島で行なわれる。

（塩浜　修）

第31回世界連邦日本大会　（大阪2013）に参加しよう

「今こそ　世界連邦を」

主催:世界連邦推進日本協議会

＜日　時＞**2013年11月10日（日）**

日本大会　午後2時～午後4時(午後1時30分開場)

＜場　所＞ **大阪国際会議場**10F

会議室（1001－1003）

〒530-0005　大阪市北区中之島5－3－51

最寄駅　京阪電車中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（２番出口すぐ）

＜参加費＞1,000円　　（会場費､資料代等を含む）

＜後援団体＞外務省･文部科学省･大阪府･大阪市･大阪府教育委員会･大阪市教育委員会･財団法人大阪21世紀協会･大阪市PTA協議会･毎日新聞大阪本社

記念講演

講師:**田原　総一朗**

1934年滋賀県彦根市生まれ。早稲田大学文学部卒業･岩波映画製作所、テレビ東京を経て、'77年フリーに。現在は政治･経済･メディア･コンピューター等､時代の最先端の問題をとらえ､活字と放送の両メディアにわたり精力的な評論活動を続けている。テレビ朝日系で'87年より｢朝まで生テレビ｣'02年4月より母校･早稲田大学で「大隈塾」を開講、未来のリーダーを育てるべく、学生たちの指導にあたっている。'05年4月から早稲田大学特命教授。

＜第1部＞　午後2時～3時

開会式

会長あいさつ　海部　俊樹（元内閣総理大臣）

シンポジウム　「今こそ　世界連邦を　！」

＜第2部＞　記念講演　午後3時～4時

「どうなる世界の平和！」

講師：田原　総一朗　氏

＜懇親会＞　午後5時00分～午後7時00分（予定）

会場　リーガロイヤルホテル　会費　１万円

お問い合わせ・送付先

第31回世界連邦日本大会実行委員会事務局

京都・大阪府支部

〒530－0045 大阪市北区天神西町8－17

テンマセントラルビル2F　株式会社どりむ社内

TEL 06-6313-8010

本部事務局　阿久根　TEL 03-6803-2114

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ﾋﾞﾙ3F

E-mail ： akunetakeshi@gmail.com

ご参加を心からお待ちしております。日本大会へ是非お越しください。

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送または FAX にて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会　　〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3F

電話（03）6803-2114　FAX（03）6803-2117

□　普通会員／年額5,000円　□維持会員／年額10,000円　□賛助会員／年額15,000円

WFM 理事会報告

7月24日から26日までニューヨーク郊外のホフストラ大学でWFM理事会が開催され、当協会から阿久根武志事務局長・WFM国際理事が参加した。

主な内容は以下の通りである。

１．WFM分担金軽減

世界連邦運動協会（WFM Japan）からWFM本部への年会費を2,000ドル200,000円に軽減することが決まった。年会費減額をしても国際理事を選出する権限はそのままとなった。

（旧：　2011年度683,064円、2012年度696,908円）

（新：会員数にかかわらず年間2,000ドル、2013年度分から適用。）

※既にビル・ペイス専務理事と犬塚国際委員長の間で昨年世界大会の際、内諾を得ていたが、今回、正式に了承された。

２．ビル・ペイス専務理事から日本大会へメッセージ

・日本大会への祝辞、前回東京大会でのお礼

・WFM日本に今後とも力になってほしい

・日本政府に対して憲法九条を変えないでほしい

・普通の軍隊を持つ国にならないでほしい

・エネルギーについては持続可能なあり方を模索してほしい。

３．WFM本部のプログラム

（ア）国連議員総会キャンペーン

10月17日から世界的に展開。電子署名等で参加を呼びかける。（次頁参照）

スローガン：　“World Parliament Now”

副題：”Let the People Decide”

http://en.unpacampaign.org/appeal/index.php?id=jp

国連議員総会についての新刊　Joseph Schwarzberg著（国連大学出版）Transforming the United Nations System: Designs for a Workable World

（イ）国際連帯税　WFM理事会でビル・ペイス専務理事がFTT（Financial Transaction Tax）について言及。

４．WFM予算収支　WFM予算と支出に関して

収入予算：各国政府から36%、政府をまたいだものが26%、財団からが28%、個人からが3%。支出予算:CICCが70%、ICRtoPが15%、その他の項目が4%、WFM関連が11%。総額3,533,709ドル

その他　公正な社会を　ビデオ

password ： lioneltv

http://ajws-portfolio.worldcitizenvideobooks.com/video/63498338

（阿久根　武志）

↑WFM本部（国際事務局）708 Avenue ビル

世界議会に向けたグローバル・ウィーク・オブ・アクション（10 月 17 日～24 日）

もし自分たちの現在の政治システムが、ますます大きくなる地球規模課題に対して不適切であると感じているなら、あなたは決して一人ではない。10 月 17 日から 24 日の世界議会の創設を求めるグローバル・ウィーク・オブ・アクションに参加してください。世界議会こそが全ての市民に本当の代表を送り出すことを可能にする。

地球規模課題が増えるにつれ、いろいろな背景や文化をもつ世界中の人々は、政治家を選出する現在の仕組みに不満を表している。このことが彼らを地球規模の意思決定において声が届かない状態である。

私達は多くの地球規模課題をかかえている。生態系システムのひび割れ、人権を保護することに失敗し、核軍縮は不完全で、グローバル・マーケットや経済システムの規制はできておらず、社会的経済的不平等を克服することもできていない。こうした多くのことはすべてグローバルな問題であり、地球規模の解決策を必要としている。しかし誰が本当にグローバルな見地からこうした問題を取り扱う立場にあるのだろうか。

地球規的課題の解決策をつくるために、私たちはグローバルな民主的議論や意思決定を調整する地球規模の政治的機構を必要としている。

今日、地球市民は国連や国際通貨基金（IMF)、世界貿易機構（WTO）や G20 や G8 などの機構で取られる意思決定にほとんど影響力を持っていない。

こうした機関で代表である政府は私たちの未来を決定しているが、往々にしてロビイストや大企業の影響を受けている

こうした政府の主な関心事は、彼らが何を国益とするかであり、人類や環境の共通益ではない。

では誰が世界の人々の言い分を語るのか。人々は自分たちで意思決定をするべきだ。

民主主義的に市民は市議、県議、国会議員など既に様々なレベルで代表を選んでいる。ヨーロッパでは欧州という大陸議会すらある。それでも地球的課題に対して議員が選ばれた世界議会は存在しないのだ。

世界議会は民主主義的で公明正大で人類の公益に最大限に役立つ解決策を見つけ実践するための手段となるであろう。

世界議会は、国境を越えた、世界中の政治的、宗教的、民族的、文化的多様性を持つ市民のありさまを反映するだろう。

このキャンペーンの参加者である私たちは、世界市民は自分たちの世界の代表を選挙で選ぶべきであるという基本的な考えに賛同する。世界議会がどう機能すべきか様々なアイデアがある。ある人は電子的にアクセスできる直接的市民参加を可能とする仕組みに補強されているべきだと考える。私たちは多様性を持ち、自分たちの声でつながっている。

「自分たちに決めさせて」

私たちは国境なき民主主義を必要としている。グローバルな民主主義をつくらなければいけない。私たちは世界議会を必要としている。

私たちは 10 月 17 日から 24 日に行われる、世界議会を求める最初のグローバル・ウィーク・オブ・アクションに個人、組織、グループ、運動、あらゆるところに呼びかけ、共に行動します。ぜひ地球規模の民主主義のために声をあげよう。

＊　＊　＊

あなたが取れるアクションの例を示します。

・このプロジェクトに関してどのように関わりたいかメールをする。・フェイスブックやツイッターに「いいね」を押してリツィートする。・友達に知らせて、署名を呼びかけたり、あなたや友達の写真を送る。一緒に盛り上げて参りましょう。

（宛先：info@wfmjapan.org 件名：WPN）

参照サイト　http://www.worldparliamentnow.org/

（阿久根　武志）

国と国がいがみ合う時にこそ「友好」

今年は日中平和友好条約締結 35 周年。高知県日中友好協会は 8 月 8 日から約 1 週間、高知市内で「池田大作と中国展」を開催した。尖閣諸島をめぐって日中がぎくしゃくしている時期に「日中友好」でもない、しかも宗教団体の長を持ち上げるのはいかがなものかという意見もあった。

結果はオーライだった。在日中国大使の程永華氏から心温まるメッセージが届けられ、大阪総領事館から副総領事以下 2 人がオープニングに参加してくれた。ともに主催団体となった東京の中国文化センターはセンター長の石軍さんほかスタッフが準備段階から高知を訪れ力になってくれた。

高知県と中国側の交流にはとげとげしい雰囲気は一切なかった。この展示会を終始リードしたのは植野勝彦さん。80 歳を越えるが家業の陶器店を仕切っている。中国・景徳鎮の陶芸家との交流が縁となって日中友好にまで活動を拡げている。植野さんは「日中がこういう時期こそ交流を深めるイベントが必要」と友好協会の仲間を説き伏せた。

筆者もまた植野さんの手伝いをしながら、日中の歴史を今一度学び直すことにした。孫文の革命の片腕となった日本人は少なくないが、その中で高知県出身の萱野長知という人物がいることを知ったのは数年前のこと。高知の人はほとんどこの萱野という人物を知らなかった。

そこで自分で学んだことを高知の人たちに知らせるために、「池田大作と中国展」のオープニングの講演会の講師を自ら買って出た。「萱野長知と孫文革命」と題した話の内容は次のようなことである。

高知県は日本の自由民権運動の発祥地である。日本に民主主義を定着すべく明治政府とたたかった人々の中に中国革命に対する大きな共感があった。

孫文ら中国革命を担った人々の中の多くは日本留学を経験し、西洋列強からアジアを守る必要を強く感じていた。

日本の自由民権運動家と中国革命家はアジアを守るという共通の意思があり、そこに国境という意識は希薄だった。ともに助け合わなければ共倒れになる可能性が大きかった 100 年前の歴史認識についてわれわれはもう一度認識を新たにしなければならない。

萱野が考え行動した時代背景と現在はまったく違うものとなっている。誰も見たことも行ったこともない尖閣諸島という小さな島をめぐって角を突き合わせている。万が一でも、このことが理由で戦端が開かれるようなことになれば、世界の笑われ者になる。

国と国が良好な関係にある時に「友好」を唱えることは簡単なことである。本当の「友好」とは国と国が危うくなった時に草の根の交流を続けることである。

前回のエッセイで「非国民」について述べたことを覚えている方もいると思う。今回の展示会で学んだことはまさにそういうことであった。国と国とが険悪な状態にあったからといって一人ひとりの国民が互いに恨みを持っているわけではない。

行動を起こせば、心が開かれる。どちらからでもいい。そんな人と人との関係を積み重ねていけば、国と国とのわだかまりもいずれ溶解していくはずだ。

世界連邦運動の基本も実はそんな簡単なところにあるのだ。そんな気持ちを確かめる暑い夏となった。

（萬晩報主宰　伴　武澄）

「現実」としての世界連邦　世連ムーブメント北海道　2013

世界連邦・北海道は 9 月 28 日(土)午後に、札幌市民ホール第一会議室で、第 15 回年次大会を標記のテーマと大会名で開催する。

＜趣旨＞　この地球上で世界連邦運動が始まってから、約 60 年を経て世界で初めて世界連邦の国会決議が日本で行われた。それが 2005 年 8 月。それから 8 年経ち、世界連邦運動は国会決議の次の段階へと確実に動き出している。今一度ここで原点に返り、過去を整理し、現実の未来を切り拓くための礎としたい。

＜基調講演＞　「世界連邦運動　来た道と行く末　世界連邦は近未来の現実である　」

講師　世界連邦運動協会副会長　元北海道女子短期大学教授　　荻 野 忠 則

＜フォーラム＞　「現実の世界連邦はこう動く」

コーディネーター　　世界連邦・北海道副代表　　日色　無人

世界連邦・北海道常任理事　　秋田　隆志

コメンテーター
「石原莞爾の永久平和思想から」　はちどりクラブ、世界連邦・北海道理事　隆久　昌子
「九条を世界に実現する立場から」　「生協九条の会」事務局長　三宅　勲
「宗教心と宗教和解の思想から」　北海寺住職、世界連邦・北海道理事　広瀬　観成
「基調講演と本部の理論政策委員長の経験から」　世界連邦・北海道　代表　荻野　忠則
（荻野　忠則）

咢堂精神を発信し続けて4半世紀　尾崎行雄を全国に発信する会

当協会の初代会長（総裁）は尾崎行雄です。同氏の遺志をついだ「尾崎行雄を全国に発信する会」から寄稿していただいたので、以下に掲載します。

「尾崎行雄を全国に発信する会」は、平成元年に尾崎行雄（咢堂）の生誕地・相模原で地域の有志により、「郷土の世界的偉人尾崎咢堂を全国の人々に認識してもらうとともに、その精神的遺産を受け継いでいくことによって地域の発展に寄与すること」を目的として発足しました。以来、咢堂の業績展示、『漫画尾崎咢堂』の発行、咢堂ゆかりの地への研修旅行、学習会・講演会の開催等を行なってきました。

咢堂の政治精神を蘇らせ、将来の日本を担う青年により、現代政治と自らの生き方を説き訴えてもらう『尾崎行雄杯演説大会』も相模原市や神奈川県等の支援のもと、全国より青年を集め平成 15 年から毎年 11 月に開催しています。さらに、平成 19 年からは市内中学生向けに『尾崎行雄読書感想文コンクール』を毎年実施しています。

昨年度は尾崎行雄東京市長がワシントンへ「日米友好の桜」を寄贈して 100 周年ということで、会長他 6 名で『全米桜祭り』に伊勢市の NPO 法人「咢堂香風」の人たちと参加し、ワシントン市長や日本大使館を公式訪問、全米桜の女王決定のパーティーに出席、パレードを観覧するなどしました。

桜といえば、平成 4 年に東京都足立区から「里帰り桜」4 品種 32 本を受領し、『咢堂桜』と命名し、市内小中高校や公共施設に植樹しました。今や毎年見事な花を咲かせています。昨年度も日本さくらの会より 2 本の里帰り桜を寄贈してもらい、咢堂の生地の記念館庭と市内の公園に植樹しました。

昨年の演説大会の様子

第 11 回演説大会のご案内

日時：2013 年 11 月 24 日（日）13 時～16 時 40 分
会場：杜のホールはしもと（ミウィ橋本 7・8 階）
JR 横浜線・相模線、京王相模原線「橋本駅」北口を出て右『ミウィ橋本』7・8 階
①感想文コンクール表彰式と市長賞受賞者の発表
②演説会　6 名　テーマ：現代政治と私
　審査員：丸山和也（弁護士、参議院議員）
　片山さつき（参議院議員）
　宮台真司（首都大学東京教授）
　林義亮（神奈川新聞社統合編集局長）
　石田尊昭（尾崎行雄記念財団事務局長）
③記念講演　テーマ：日本政治の課題と展望
　松沢成文（参議院議員、前神奈川県知事）
④政治討論会　テーマ：日本の歩む道
　コーディネーター：石田尊昭
　パネリスト：審査員
（尾崎行雄を全国に発信する会事務局長 大橋孝夫）

編集後記　★「尾崎行雄を全国に発信する会」から寄稿していただいた。同会を含め、我々と理念を共通する諸団体と連携を深めていきたい。（塩浜）★日本大会が近づいてまいりました。支部のみなさまはじめ沢山の方々のご参加をお待ちしております。また国連議員総会創設のグローバルウィーク（10.17－24）も電子署名等よろしくお願いします。（阿久根）★よさこい国際交流隊というチームで今年もよさこいを踊った。高知市が年に 1 度だけ全国区になる時期だが、今年は高知工科大学の「よさこいホリ デー」に参加したヨーロッパ、アジアの学生 30 人が参加してくれ、エネルギーを爆発させた。よさこいが将来グローバルな祭りとなることを夢見ている。（伴武澄）